

第3回田村市立船引小学校運営協議会

日時：令和3年12月15日（水）15:30～16:25

場所：田村市立船引小学校 校長室

1 開会

2 学校運営委員長あいさつ

体験したこと、見聞きしたことを通して、意見交換をしていければいいと思う。実りのある協議会にしたい。

3 本校校長あいさつ

仕事のある忙しい時間に開催となって大変申し訳ない。本日は給食試食会と授業参観をしていただくということでこのような時間設定となった。12月初旬に教育相談があり、それが終わって一段落し、冬休みを迎えるだけの時期となった。事故のない冬休みにしてほしいと思っている。本日は忌憚のない意見を出していただきたい。

4 協議

(1) 給食試食会、授業参観を振り返って

A 委員：これまでの献立を見てバラエティに富んだメニューが多いと思っていた。給食を食べてみて、薄味だなと感じたが、体にはいいのかなと思う。量は大人なので少し少ないかなと感じる。5年生の息子は帰ってくると「腹減った」と帰って来る時がある。

B 委員：これが給食だったな、と思う。

C 委員：自分の時はコッペパンしか出なかったので、バラエティに富んでいいと思う。さらにおいしく改善されていくといいのかなと思う。

校長：栄養士は本日4年2組で授業をしていた。時々今日のようにTTで授業を行う時がある。

A 委員：授業についての感想はどうか。授業時間が限られている中で4段階の評価をするのは難しい。私は子どもがどのように学びに向かっているのかを評価した。全体としては充実した授業が展開されているのかなと感じた。すすく学級は子どもが3グループくらいに分かれていたが、先生の対応が難しいのかなと感じた。先生の数を増やすなど、工夫ができると良いと思う。

B 委員：学級掲示や学習環境を中心に見た。ほとんどが素晴らしい掲示があり、学習環境も整頓されていた。学習環境と児童の集中はつながっていると思っている。低学年は大変だなと感じる学級もあった。学習環境において難しいと感じる学級が2, 3あった。中学年、高学年の児童は落ち着いて集中して取り組んでいる様子が見られ

た。先生方は本当に熱心に頑張っていると思う。学年間、学級間の協力がもう少しあるとよい。支援員ばかりではなく。よりよい学校にしてほしい。

C 委員：どの先生も一生懸命やっているなと感じた。先生と子どもがどのように一体となってやっているのかを中心に見た。1年生は大変そうだなと感じた。1学級の人数が多いと感じた。頭が下がる思いだった。

D 委員：評価をするのは難しい。学級経営が大変なのは分かっているのに、日頃の授業や掲示の準備がどれほど大変だったか。自主学習のノートの積み重ねや掲示を見て、先生方の苦労や頑張りが見て取れる。教材研究をやる時間もなかなかとれないのではないか。タブレットを使っている学級が多かった。いろいろな方法で取り組んでいる様子が見られびっくりした。低学年と高学年では差はあるが、1年生は入ってきたばかりで大変そう。非常に大変そうの中で先生方は頑張っているのが分かった。

校長：知的学級は3学級21人。上限は1学級8人となっている。他と比べると多い。情緒学級においても8名が上限の中、最大の8人となっている。改善に向けて要望を出している。困難な中、先生方には頑張ってもらっている。支援員の方にもとても頑張ってもらっている。さらなる改善策については考えていきたい。

(2) これまでの教育活動を振り返って

校長：詳しくは学校だよりやハイブリッドパワーを見てほしい。運動会やマラソン記録会などを保護者の方に見ていただくことができた。その後、教育相談をやって、現在に至るといったところである。旭通の要望書の件については、時間の規制はできないということが決定した。しかし、警察の方から2月の会議で、議題として挙げてもらえるということなので、成果がなかったわけではない。

(3) 意見交換

A 委員：今日の内容以外でも何かあれば。

B 委員：机が異なった学級が何人かいたようであったが。

校長：交流で来ている児童である。

A 委員：その他はあるか。

校長：来年度の新入生の給食の準備を心配している。新1年生の保護者の方にボランティアを募集したいと考えている。今年の休み時間はボランティアを募り、集まってきてくださった方もいる。新1年生の保護者で募集者がいなければ全校生に募集を拡大したいと思う。

C 委員：どのくらいの人数が必要か。

校長：1学級1名から2名いれば。これまでは教員がなんとか手伝いに行っていたが、他の業務もあるのでなかなか難しい。

C 委員：期間は。

校長：まずは1カ月と考えている。1人でも2人でもいればとても助かると考えている。

E 委員：老人会にお願いをしたらどうか。給食を手伝えれば給食が食べられますよ、ということでも1週間ごとに担当地域を回して行うとか。やはり地域は大切であるという意識をもたせていきたい。声をかければ集まると思う。定例会で令和7年安積小中一貫ができると聞いた。試験であるので、小学校のレベルを上げなければならない。そのためには先生方の負担を減らし、学力向上に力を入れていける環境を作っておくことはできないかという話になった。誰がどうやって先生方の負担を減らすことができるのか。校長先生もそれに取り組んでいるとは思いますが、やはり地域も協力して先生方の負担を減らすということが大切なのだと思う。

校長：このことを思いついたのは、岩江の件だけでなく、自分の祖母がそのような方だった。そのようなことで進めていきたい。

E 委員：一部の人に関わるのではなく、様々な人が関わって、先生方の苦勞を知ってもらおう。自分の子どもがどんな態度で学校生活を送っているのか知るべきだと思う。大きくなってきた船引小なので、変わるべきであると思う。

校長：2月4日に一日入学があるのでそこで保護者の方に話をしたい。そこで集まらなければ老人会や様々な人に募集をかけたい。

A 委員：その他あるか。

校長：船引小の子どもたちは、国語はそれなりに成績がいい。算数は県平均よりは高い。しかし、福島県の全国学テの算数の結果は最下位であった。それを受けて、算数コンテストを行うこととした。少し難しいテストを行うことで、冬休みのモチベーションとしてほしいと考えている。学習における称賛の場が少ないのでそのような場としていきたい。問題は校長が作成する。このようなことで、子どもたちの学力向上に取り組んでいきたい。

A 委員：適正規模適性配置委員会で、統合について話があったが、学校としては何か取り組んでいることはあるか。やはり丁寧に組み込んでいく必要であることだと思う。何か要望が来ているか。

教頭：保護者から要望はない。船引小は受け入れる側であるので、保護者の方もそのように認識していると思う。統合される側の学校は様々な思いがあるので丁寧に話を進めていると話を聞いた。

A 委員：学校によって温度差はあると思う。船引小では、人数が多いのにこれ以上増えて校舎は足りるのか等の話を聞いたことがある。

教頭：保護者の方からの意見を聞くことができる学校評価アンケートを冬休みに行う。自由記述もあるので、そこで意見が出れば、2月の会議でお知らせをする。

校長：この先統合する時には船引小学校の1学年も3学級になることが考えられる。統合することによって4学級となり、少ない人数の学級になることも考えられる。105人

だと3学級、106人だと4学級になる。統合によって有利になるということもある。

C委員：船引小はハザードマップで危険地域だが新築はできないのか。

E委員：ハザードマップの見直しをした時、やはり学校は危険かもしれない。周りの家、道路全部底上げすればいいという話が出ているが、やはり厳しい。どこかいい場所を探しているが、難しい。

校長：現在は学校を大事に使うということでやっていきたい。別件で来年度から教科担任制をやるよう国から言われているが、わずかな加配予算しか出していない。教員の増員はできないとのこと。非常に厳しい状況である。学校運営協議会は県に要望できる権限があるので、どうしても厳しい、やっていけないというような状況であるときには、また、話し合いをさせてほしい。

5 閉会